Nagoya University Library

愚見抄

一

名大図
W 皇
913.32
I
3－1

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 1/52

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　2/52

Nagoya University Library

60815

伊勢物語愚見抄巻一

伊勢物語乃来書ハ知顕集といふへ大納言
経信卿の筆作といひつたへ侍れとも
あらて又十巻乃抄世間に流布せるなれ
人ゆゑ事さとも古今相伝乃家説にハ
法ふの奥義とのゝ古今乃説にハ漢ゝ
抜尺すると来暦と引載ある和漢の書典
一として所ゝとある事なしむし地ゝ
本意とゝるゝのゝまあす詞花言葉
あらゝも成ゝ来学の学者乃ゝ伝見
すへゝ邪説に惑ゝ疑ふ所ゝす

60815

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 3/52

Nagoya University Library

次に拾遺集に業平中将は馬頭観音小野小町は
如意輪観音の化身といふ事なるべし
事のこゝは是は後世に色好の人此歌の方人
なんなどに経伝の名をとりて擬作せるも
とゝ云て作り撰に拾ひ入れ業平卿の家に
入れ入れ入れ入れ物語とも物語とも
とゝ云て一度用ひ来る事なれば
いと云つゝなふる也故に此抄も必しも
規模とせざる者なり

此物語の名字は拾遺に伊勢物語と書あり
又在五中将とはとゝのれるを昔の事は

書なしとあるとゝ云説を毒説いまゝ一度世に
仁和の帝れ荷河の行幸は業平没後れ
ゝ也とゝ云説は伊勢物語の書あるとゝ
いとれき身つゝ書あるといふとゝ
特の仮とゝて伊勢より下向して歌文に
色あるてゝつゝまるる此書の肝要あるに
ゝりて物語の名とゝ云ふ説に
ゝりて特の仮とゝ云ふ説に載あり
一本ありゝは伝行の今業の所おく用
へゝて定家の奥書ゝ云ふ業平
中将のかゝひ作り世にものつゝ物語の

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　4/52

Nagoya University Library

中よりなどあるべし。はやよりこの
文代とり撰集なとれなりふを哥よりはきそ
俗俗者と載はるるあり。はとちうあれ
来尺よりくるなどを弱て作いとはか
つかなふとなりなりとも世よれ
あひなりともかりつうるとあり
ねくく人知るべいるんや数百年後よ
出て数百年のさはとをしるべきいふ
るべきとひ名哲乃口伝ありといふとも
伝聞よりねるるなり。或説ハ葉平ハ
あつまくいはるを此物語ハ東国名所と

弱て作ハ東山或ハ都をさはるとうて
ふとをもて大なり説なり。あへはるる
るハ古今後撰大和物語よりあるよ載
うくハ是よりもあり。俗撰を後ハ又或説ハ
奥州なとの名所をいへるハ葉平ハれ
さて作はるねと言よりてをあるよ
やうよ書るはるれ作物語乃習ひやと
いへる此説ハ俗ふ一理あるよはるう
物語の中よ万葉集なとれ古き哥を俗
載るるを或ハ上乃句なとも下句なとも
元くをの事をもいふとふ歌乃

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 5/52

Nagoya University Library

るあれて古き所をきのまくいたるるを例
なるあるは左傳なども諸侯乃大夫以
宴するに詩を賦といひて今新らく
作るやうにひれとむ以三百篇の
詩をうたひてをくるとのあるあり
しの物うるる古き事を詠る事是ホ
准すへきなり

在原業平朝臣は平城天皇乃孫四品弾正尹
阿保親王乃才人の子母は伊登内親王桓武
天皇の御女也天長二年八月に誕生官は
右近権中将兼美濃守位は従四位上にて

なくして元慶四年五月廿八日卒年五十
六歳也国史乃傳に業平は體貌閑麗放縱
不拘略無才学善作倭歌といふ古今集の
賀之序にも在原乃なりひらはそ乃ころ
あまりてむとしをもしらぬ人にて色
をのみこのましくおもふこころ
と此物うるる乃方をみ作るこころいあく
まてをりて詞はいとすくなくして
かの序にいへること

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 6/52

Nagoya University Library

むしろ　たこうぬかうあり
とりをのこなれとも　ものとむしろ　初位乃
やうようになりあり　ものといふ　ものとは
きれとも　ものとむしろ　なりてまいをしれ
むしろなるものとけりよりむしろぬすの中
たことはいふ　業平乃中将をいふうぬ
初位なりうあり　ものは爵や　五位のうちち
といふは　叙爵をいふは　業平中将を
なりて　叙爵　しあることをいふかの　叙爵
仁明天皇の御宇　嘉祥三年正月七日と
ものあり　一ものは　元服乃ものとあり

いふ　後撰集なとにいはるるはあるね
とも　実には　叙爵とうぬうあり　とはいふ
なり　日本紀にも　初位とうぬあり
ものとはなり

なりて　京のすう乃　里よりなりて　そのかりはいふ
奈良　京は平城の文　なり　大和国添上郡
なり　京はあり　春日里は中よりあり
なりて　初切の　所あるとはいふこれ　紅は
下ものとは　鷹狩　いふ　なりは
はは京とさりてすう乃ものとはゆとはいふ
いふことはいはるるなり　下ものとあり

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 7/52

Nagoya University Library

そのことふいとなきものつくる女けしうすきたる
それはきこゝハ去日の里かりなまくとゝ寂媚と
うきて女のかたちの媚あるといつり
姓の程よりなまぬさきあてるとゝ
ちうこれ文也文生の字とかなをくまを
詩りそしハかなくくくあるとゝ
いつるゝ女車とみてちうきてくなる
ぬくとゝ下の羽よりてありしかなくる
きさゝずるちうもなくくきうもひ
すんうるうり源氏の羽よりなまくの
うんぶちぬといつるも生得よ種姓ちうき

人ていハなくてなきありなるんといつり
ちうの羽をおちうりてちうひてあひ
人あることあるなりけるとはおとゝ
ことも或説よりこハ紀有常ゞ女二人あることと
つとあるとゝ詩ちてもきうん
このおとゝうハまみて言ちり
うハまゝハ垣間見とくかきれひさちうぬ
ことも日本紀よりハ視其私屏とうきてう
ぬこと詩り源氏の物ちうなくこの
羽をみてあり
たゝしすあるきふいとけしあるてきて

Nagoya University Library

ちらはとひとり
ゆくの京はをはるや旧都はなまり有よ
ふるさとゝいふ大同乃天子乃ゝ哥
右ゝとなりてなれ給ふ事ゝ有かゝ次
むさしあるゝ　とき又中将の右ゝてゝ
なりてゝ女ゝくてハまの字をけゝと
もむけゝるゝとはゝ女なりゝとなゝ
又強の字をもゝ女ゝとゝ侍ゝ
ゝとゝ乃ふゝくもなきゝとゝゝ女なゝ
いひつゝゝゝ寄ゝてハ業平乃中将の歌
ゝとゝいゝ女ゝゝ人ゝゝ女なゝ

ゝはゝはゝれてんくゝゝきゝゝれきゝゝ
ゝゝゝれゝかはゝゝゝけゝゝゝゝゝ
ゝゝゝんゝはゝゝゝ女ゝ
れゝゝゝゝゝゝけゝゝゝれ乃すゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝれかゝゝゝゝゝ
ゝれゝゝなんゝゝゝ
むゝ警特乃特衣ゝ
ゝゝゝ中将の特衣乃文ゝ
ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝ
すれゝゝゝ
ゝゝゝ特の乃ゝれゝ衣ゝ

Nagoya University Library

むさしぬの草ねをむすび　はるのあらのの
はるのなつかしんを草ねに根をしてすまるを
根摺の衣といつり出ハすり衣乃ちんや
みちのくにまよひこはあのんのうちをれと出ハ
まへて詠り此ことをよりんあるまとまと
うり衣のすをとりてうけるなるなり
とうんひつをていひやりをり
おひつをていハひつをてゆるもやうをとり
あへと詠てやうんなり
つゆてかりしろさもものやひくん
をうりハ物をうれ作者のをを中ねをれ

つゆてかりしろさもものやひてうんすをを
しをうをうをいをうんなり
をうのをれ出ハりをすり詠ゆへををれをうをかるを
といをうを乃ちをうへなり
をハ河原左大臣融公の子をうをうれ物をハ
寛平七年ま七十三にてうをうをれを中將と
おをう時の人なりをれとも光遠の詠なを
徳歌より引あるなり　山さをあをまて出を
をつをうれをもをうへをも風みをねをををいをハ
古とゝ以後の作者清慎公乃詠なれとも古と
の六義乃ことれ徳歌より引ひをうを

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　10/52

Nagoya University Library

奥州信夫郡よりもちすりとて髪をとりて
やうなすりあるをは世のあらすりと云ふ
もろんの名所にてこれをさう云ふ
されんとはもとへと詠る古と集第十四
第四の句にもれんと詠るとかくり
むしろ人はくいちやさやひをるんしけり
いちやらは遅早とくすれてすこやか
なりんもそもそもりて人は性の高なるひ
のどあねをいちやさいもとやびる
日本紀は風姿とうさて詠りやびうる
あるいはさあるけるも宣れやいいるる

んりけるあるし人と俳諧しあることをやひ
とふるや源氏物語のうちはあるこ世まを
をんをひて今へるも但源氏はいあるそ
大略をやひなるんも
ひうしたこをりなれ京はけるれこの京は
はるこのいあさまりをけはいの源は
をんなあり
桓武天皇延暦三年十一月は奈良の京をて
山城の乙訓郡は都をうつを長岡の京は
いつり同十三年の十月は又葛野郡は辻を
をを平安の京とあづをもをり在中の

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 11/52

Nagoya University Library

誕生(じゃう)ゝ天長二年まて八卅余歳(よさい)なる地
あるひ中将(ちうしやう)なりけれ物(もの)ゝ
うゝ五十余(よ)なりけること如(ごと)ゝ
いつくしくて人(ひと)ゝ家(いへ)なといまゝ
さんとうゝふまゝきうや
それ女(をんな)ゝは西(にし)されはなり
世の人(ひと)ゝ西(にし)まるといひ貴(たふと)
よ人(ひと)さやと清(きよ)よ人(ひと)ゝ
ひとりのこもあゝさりけ
此女(をんな)八男(をとこ)ゝあるをひとりあすとも
それをうの西(にし)ゝ物(もの)ゝ

西(にし)先(さき)なるとの親(おや)ゝ先(さき)人(ひと)なと源氏物語(げんじものがたり)
いつの八宮(はちのみや)西(にし)となんといひ貴(たふと)
西(にし)ゝ物(もの)ゝ
て又西(にし)ゝなるもあれて中将(ちうしやう)
西(にし)男(をとこ)ゝ物(もの)ゝ
てといふ物(もの)なり

西(にし)ゝ物(もの)ゝ

そ物(もの)ゝ
詩(し)ゝ細雨(さいう)なとはれ
老僧(ろうそう)ゝ
なといつる

おこゝろもたれもまてよろしくとありて歌よみ物とてなかゝ
なるあはれをハなるあはれともいふハなるへし
物くてなるあはれくしつと詠る歌の意ハつれ
くとひさしくある物なるゆへて歌物とハ
いふなり古今集第十三恋の部に入る
業平の哥なり

けさうしける女のもとに
女をおもひかくる事をけさうするといふ也
この女ハ二条后なり
ひしきものといふものをやるとて
ひじきもとは海藻のこと也

おもひあらハ葎のやとにねもしなんひしき物にハ袖をしつゝも
此哥ハれんほ人と懇切に思ひてあひむつる
志たりてあれをはかくしきとこそなりとも
袖をひしきものとしてねんとよめる哥
ひしきものをかけてよみて詠る也やまと
物かたりもこの哥れハとはみえたり
二條の后乃まだみかとにもつかうまつりたまはで
たゝ人にておはしましける時のことなり
物語の作者きゝ人とおもひあかしたる
二条后乃名ハ高子中納言贈太政大臣長良の
中女なり貞観八年十二月女御に立ち給ふ

Nagoya University Library

廿六のとしなりしとも同十年十二月より陽成
天皇をうけたてまつりて位を辞したまひて
後元慶元年正月より中宮とゝのとなりて
十年三月より薨しまつる六十九歳なりしを
人々おもひまうすは貞観八年より先
のことをいふ
むかしひんかしの大臣よりかはさきのうへやかはら
ゆゝしかれ
かはさきの大臣とは皇太后宮元子内親王
ゆゑ河原院とは源融公の故
ひとり太政大臣良房公の女文徳天皇

東宮のはは女御より皇太后宮の称祥三年
正月天皇位をうけたまはりたまふ三月より清和
天皇生れさせたまふ天安二年十一月より
中宮とゝのとなりて廿一貞観六年正月
皇太后宮より立たまふ後元慶六年陽成
天皇は位をうけたまひて天皇の祖母
なりたまひて太皇太后とゝのなりかくて
昌泰三年五月十三日崩御はしまして七十三
にてうせたまふ后とゝのを又又条后とも
閑院左大臣のは女順子をも五条后とゝ
おもひはしはしは位をうけたまふ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　14/52

Nagoya University Library

うの尉よすむ人あり云々
南殿よあひなく人てうしひんうまつりて
をのく中門なと殿をハ西の尉東の尉と
つとめさうの尉うすむ人ハ二条の后をハ也
染殿の大后とハいとうて内まうの尉よ
西の尉うの位をうなりたり二条后ハ貞観
八年女御入内あり元ハ皇后宮也
それとハいはあてんうつりたる人
かいかんこいはあていたひのかなる
くうしていれかたもていおもうしう
源切よなりあるをいはあてうるし

ゆかりとうり此人ハ則中将という
し月の十日はうりのかたふかうよかられうう
中将乃ゆかりかうひ行きえ在の宮とハ
うて后をとうえまうられをかうよかられ
あるといてうの宮ハいつくとハうりうう
あやをくゆきうへうにもあるハ親王の
まうの宮家をいつもの又女御うえうひそ
ううまうり行をおうかられうり北方
なうとうと行ひつうんあり云々
うとうとうとうくうくうう
あうてみあてえられと

Nagoya University Library

あらてみけるてこうれともとうて
あそこなるいこれて
けいこうなるあれあるとうて西の対乃人
かようこれて人すきぬとこうれてあき
あるとふなり
月やあらぬあやむこうれあるぬ春ひとつ身うて
此歌古々の第十五巻まき方乃ちこうる
月もむこう乃月ていはなるあるあもむこれ
こうこうてをなこうこれこうこうかうのやう
ものなくこうこれかうはてあるんちまう
いうこうやこうとけうあるひとけう

ものはあるてあうとけうをいへはるれて
後こうこうこれかるひあるまかこうぬもう
かこうてけはゆうことをこう乃歌んぬにて
あこうこうへこうこうやうなうこうのんあうを
ことはあるあぬいこうへはあるひとふ
こうや
むこうけこうこうこうひんうこれ又春こうこうま
いとをひていこうこうこう
又春こうこうへ上こいこう乃あとけう
みそうなうとこうなれん
こうこうへ嶽の字を隠嶽乃んと古今集

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　16/52

Nagoya University Library

まは五ひきのとうなりなれとかくり
おうしんなり
ちちとはのこあるこつのひちれくけまより
まうりちちとはなものたうしまりもてる
やうはあれまりてはれと上はのたうなり
いうしまとはいたり
あるしまとはたて
あるしハ深夏れ大后とはす
人とれねるかちひちれ関りりたひくことうちもねなん
古と集第十三まき
いとはうしんやうりあるしゆるてたり

おとこ此方とうみてんうりうれんなれいあるし
ゑれりて関寺よんとかたりてきひし
たまはのしをねなり
せうとうのちのはのしをあひきりとう
二条后のやうとうちうハ右大臣基経ハ大納言
国経ハなとも也もうちんはのりりねさ紀乃
おとなりたり
六
女乃えうはのうりたり
此女ハ二条后いまうまうくはのしてはいとの
そうりれ女御とはて文徳の関寛りはの
くりたりはの后ゑ人とてうはのりのと

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　17/52

Nagoya University Library

中將ゐすを出るとゆふえうまもりけり
といえうさきぬすこえうに紀ゆきへ
あくさうはとゆふ河をわていさろれ
あくあ河と云ハ摂津の名所なり元宮れ
ていハ行ゆき一説ハ内裏のうちハ濱と
かりて宣うゆうゆうゆ物なとをゆうゆ
あるゆ川とゆうゆり此一説ハ信物うう
うくあ花つううとハうちなりわていハ物の宮
業乃うゆりとうありうう宮をとれいなりとえい
女おとこうとひうう
業の工をとうう宮の玉乃やううひうれうを

女なるゆ地とるんとひうう
をあうとうとうもうて
思ハおうろうきうとうあうんうりトうあり
わううなうんうう
ゆううなううはあれあうゆ宮庄と云字と
うううむ大極殿乃高山庄とハあうゆう
とうりあううなうんも大内のうち業
あうゆとゆうゆ宮廳とゆうと云説を
それも説接なうとうや
れとうゆうやるうひををひて
業平ハ中將乃宮なれとうやるうひをを云

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　18/52

さしいつしそのうへ雷鳴陣(くわんめいのぢん)には中かねる弓
箭(や)を帶(たい)して内裏に祗候(しこう)を許されしうへ
なりとあれは弓矢をとることハ勿論也
さてまたやひとくちにくひてけり
女を人にうはれぬるを見るにくやしけれは
あらそふなり周易(しうゑき)乃文に鬼一車(ゑんしや)といふ
ことあれは一口といふひとくちにくふといふさ
それ鬼は見しりけるあれはところに
ありてはしりひとしりけん
あなやといひけむと
あれハあなといふ詞也嗟嘆(さたん)する聲なり

うせし悲しさも切なることもあるといふ也
あしすりをして
蹉跎(さた)といふてあしすりとよむおさなき
子乃親をしたひて泣やうなるさま也
白玉か何そと人のとひし時露とこたへて消なまし物を
しらんと知ぬまに消なんする物を露によそへて嘆
これも二条乃后乃いとこ乃女御乃御かたに
此下乃詞ハ物語乃作者乃それといへし
ありしさまなるへし
清和の御母の后とならせ給ひし後の
事いなるらん

堀川のおとゝハ昭宣公基経をいふ太郎
国経乃大納言ハ長良乃一男にてあり
太郎と云昭宣公ハ忠仁公乃子になりて
官位ハ兄に越給ふなり

七

京にありわびてあづまにいきけるに
京にすみわびて人をもなくさむや
とて友ともをさそひて東へくだりける
さへ都しゐる乃うれへもなきなり
いまやおもひ乃おもひ乃うきをそふなり
うらつたひ海のかたなり
いとゞしくすぎゆく方の恋しきにうらやましくもかへる浪哉

後撰集第十九業平あつまへまかりける時
よみて侍り

八

志なのなる浅間の嶽にたつ煙をちこち人の見やはとがめぬ
浅間嶽ハ冨士乃やうに煙多けぶりたつ

九

身をえうなきものに思ひなして
えうなきハ要用なり世にもちひられぬ身と
思ひて東に住むところもとめにゆく
そこをやつはしといひけるハ水ゆく川乃
くもでなれば橋を八つわたせるによりて
なんやつはしとはいひける
三河の八橋ハふけのやうなる所にある

Nagoya University Library

まくのやうなる物をしてそれうへは板をかけ
あるまきをうへまきらるるものをせりはて
まくのやうなる物三えうきむうハハ
きくんうし蛞のまハやけある物なむ
ぐりてとはいつるや 後撰集第九
おりてなるきんハやけるれくりてまきる
こしハ板をし
れいひくひくり
れいひハ猿の食物なり 干飯とく
又飯の字をもれいひとよめり
かゝる夜きつなれ〳〵つまあれをけるくるある猿をる

此歌古と集乃猿の部よ入るりかきつる
乃五文字を白れるり先ようてよ物
猿のつきとをるんを紅つるれ〳〵つむ
をるくも皆夜乃えんのことはや
みる人れいひのうへよ海かとしてかとひとり
れいひのなるまよかとひくるかと人皆
なさをるなり
すきやうしやあひるり
或説よ遍昭僧正とよ又説とよかれを
いつれも説接る
京よそれ人のはのとまてあをうきてをく

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 21/52

Nagoya University Library

此人も二条后とゞまりたる云説あり詠まれたる
あるべし
時しらぬ山ふじはいつとてか鹿の子まだらに雪降るらん
雪は冬こそ降るなれ月つごもりよりとかや降るなれ時しらぬ山と詠りかの子まだらに
雪乃ふは皮毛乃りはなる物と雪乃
ひらくるなるべし
ひえの山とそらとうらうらあをうんなして
富士の山乃ふもとをはるゝはるゝ
ひえ乃嶽とすはるかあをあをんなる
ゆゝとゆゝなり

なるべしとゝ乃やうよんをきたり
定家自筆本云或説云塩尻壷塩とゝ物を
其尻似此山此物語之習好早詞発蓮殊
用此説或本なりしのやうを儀
不分明先人之命雖為塩亥凡早也
不可信用之有不心得往年有尋問人答
不知之由云
或抜云塩尻とは塩焼釜の尻よ穴を
あをてのゝとをして塩とゝへてゝ
塩乃ゝをゝ乃時乃ゝとぬをして苦塩を
ゝ乃ゝ雪ゝすてゝゝのゝとをゝもれて

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　22/52

Nagoya University Library

を定てかゝるわるき塩をとりつゝと云
をとゝ人あれをきゝたにはかはくるとを
ふゝくて富士の山ゝ沼ゝといつて
知顕集よいたるも大うおるしやう
いさゝいひ人あり今案本文ゝとうた
うつさを関とつゝ変ありうゝうつき
ゝとはうゝひてゝゝう聖賢のゝ
ゝれを君者はゝゝねとつゝは恥よゝひて
押へて義理をけるゝとき定家ゝは奇
人ようゝてつまひゝうなゝぬゝとは
さてゝゝきて下訣せられを知ゝ変ゝれ

ゝゝゝ塩庵と云変も無ゝ乃説あも
無ゝうなゝ説文なゝれを人ゝれゝゝ言
ゝゝゝゝゝゝゝ人作ゝや
さゝれゝも白さるの羽とあゝさ略
おはゝさなゝ
都鳥ハ鷗と云ゝ大ゝさ略かゝ
無こゝゝてなゝゝゝゝ
無のゝれ人こゝりて名なゝけゝ
そのはをゝゝてゝゝていく
此下定家ゝ自筆のなゝられ
十
ゝんあてなゝ人ゝんつゝゝゝゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　23/52

Nagoya University Library

あてハ當の宮と我らとの種姓なる人を
なてなるといて
ちゝハなを人をてはをん花をなり立風
さてをんあてなる人をとゝひをる
なを人ハ直さ人さをを人をとをを品いや
さを云花原ハ四姓乃うちをてをさ姓也
母乃種姓ハ父の兄よ塔まるを云
ひををよをみてをををりける
をを種ハ器量と此ををを人をしををなるへき
器をれを尊を種をいをり后よををを人
をは后をよを云此物ををりをを物ををを

をを物下よををあり
いををれををりをををのををなりをる
ひををの西入間新と云新の名を種ををは
ををの里ありやまをの西乃をを新
あるを名
ををのををのひををひをををよをををを種ををを
ををのひををハ田の面の屋をひををハ永乃
宮をひををを塔り一向をいをををや
をををハををををなをやををを中ゆ花り
元ををををををををり花原氏の母ハ男を
ひをををんをて塔てやまを方なり

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　24/52

Nagoya University Library

人の歌をとりてよめることなんやさうけ
人は歌の意をもあれば他歌と人の歌と
いづれ源氏をもあることはしらるるとは
好色のたとえ云

十一

ちりなくなる花の色なれども空ゆく月のめぐりあひ
かとは世をいとはしきさまこれ拾遺集第
十八まき横のあるものを人はむすぶの歌
おもひ侍るとき古今ゆゑ侍るとて
こころ歌のもとつひつりくるとあり

作者相遠せり

十二

むさし野はいかなやさしかの草はもえつるもあまたの草

元武蔵歌とて乃ことゝ但しかの草乃うた
古今集には去日詠とあれと大和物語
ことゝあれされ事はかさなるあや
歌乃うゝまかゝれたり
歌のうゝは武蔵守なり盗人なれとかゝ
ゝとつりたれまて乃ことはあるゆ
ゑあれもおどしてすゝきもえ
ちらる人こ乃ゆいはを人あるをとて
満ちる人なり歌の守乃侵類たゝ乃ちて
まるなり
むさし野はいかなやさしかの草はもえつるもあまたの草

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　25/52

Nagoya University Library

古今集才一春の哥よみ侍人不知の哥
定家卿云伊勢物語にはむさしをとあり
古今集にはかすみとあり若草乃はさは
若草乃はむ乃はしをつまとよそへたり
よりて人のつまとなりてわかなつむ
つまとなりて春をこのむつまといふ意の
春とすきをそへてうつなれをすきなる
人つまとなりぬ此哥のつまはたとをいふ
おとこともつまといふへきなり侍りし
むさしあつさすすふかけてのむしとはもつしらさ

馬乃たてはかうる弦武蔵国にとり出を地なり
さすらはなとはあづまのえん乃名なり
えいはとはいはむせきをみつかはわまゆ人いさりん
歌のくいはとふとてはとをいはれ
とてはむしはわまゆ人いさりひて
さかり物と侍なり

十四

中くまとはさすは葉まをなるへりけ乃哥と侍
えいは第十三乃歌に葉まはいとをいはり
歌のくいはとをしてをるれをして久しく
物をとをんりをうつをまなりてをを
くりありてをるんやと侍るをむのをいはり

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 26/52

Nagoya University Library

ちうしとらつんぬ古今秘ちうの命いさゝや
すらとんちうむのをちうしなうんといとうん
ういとハ一年のうちうちうちうの出るれとくいうう
ちうんをひうひあうりけう
ひうハ井ちうをを云者ハ田金ようう西うを地
ちうなうゆうう方うも行うかうり
者とあけいうちうはかなてうちうけれゆうれてをうをを
ちうけハ狐ちうけうの食の宮ちう狐よくハけうんを
ちうけハ庭うのうちう鶏ちういうう宮をかけ
行うりをれうちうとうう河をやんうハちううれ
をうちういうはちいうさう鶏ちうゆうさうも

遠の宮ちうやうさんちうをれハ更なうり庭うハ
ちうやくなうちうて行うちうををうしうとうう
ちうううれあるハの行乃人ちうハ行のうちうにいうちういうもを
ちうちうちう一本よくハちうちうかうりあれハ一年に
あうてうちうを奥列の所の名ちう古を集ずず
東秘よ をうろうさ記うれハ小清の人ちうハ行乃
うちうよいうさうにいうもうを ちうを 弟一 弟二 百乃
かうれうはうりうなり古を集乃秘ハちうのハ
清うりうりうを所ちうてあうりうちうをれ人
なううハ行人ちうさやひてのうりんと行うり此ハ
行うり人ちうてあうはさやひてのうりんと行うり

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 27/52

いさゝめにかハれてハ褁(つゝむ)なりこやまの
こやまに清くむ土産(とさん)をつとハいふはそれは
よきていふなるへし
よろこひてさひらしとかいひたりけり
よろこほひをよろこひてなり給へけるまて
いかやといふらと女のくるしかるへからぬ
五
なりてうくとおもふ人にわれかおもひそうり
無何条良也なまりけれともなさといふるも
あらすかぬ人と云此詞ハ源氏東屋の
巻にあり
あやしきさまにてあるへき女ともありきみえ 々わり

始終(しじう)にはすへき女とも思ひねとあやしくいひて
そのきてろをさへ海わりしくおもひてきをよ
みてやきるなり
思ふ山あのひてかうふ夜もれ人のおくもみるたく
思ふ山も奥州にありて人しれぬのおくと詠へ
無り式 詞ハ新勅撰集にのせたり
さるさうなきさえひすまんとみてハいかハおんむ
さうろうさハ不祥(ふしやう)とも悪(あく)ともかきてさる
と読りとろうきんえひすのみちの奥の
人なれともえひすんといひてえひすと
いふハ西次に向ひされひろ子の部をえひを

三郎とかうかう神ハいさゝかのゆかりても
んかさふきやもなき神なれともそれをえひす
あつかるともいふて思ふ山乃方を讒て申り
ふれも女かきりなく然て多しともく
んの外しられもなきゑひすんと付との
らひて始終んと移ふおくろれなくなり
侍りけりや

十六

伊勢物語愚見抄巻二

むかし紀の在常といふ人ありけり
紀在常ハ正四位下名虎(なとら)か男(なん)也
三よのみかとにつかうまつりて時にあひけれと
後ハ世かはりときうつりにけれハ
淳和(ぢゆんな)仁明(にんみやう)文徳(もんとく)乃三代にはうつりつかうまつれりけるなり
惟喬親王(これたかのみこ)乃母ハ名虎か女なれハこれ位にはなき
かりし在常ハ業花をたとへハおもひのかよ
此帝乃清和御門にハ位をうつりつかを移ひしかハ
世かはりつまふなれとかなり
よ乃つねの人れともあらぬ

Nagoya University Library

よのつねの人はたとへもなく酒をしこなまろ
人をうつくしあてそろなることを好うて
ゐうつくしう人のゐはまうすあるの
酒なり物をあてそろはあてそろひそろなさ
ことを好く
酒つくりをしてもはむしようしは酒のんな
よのつねのことも好
此人酒つくりなりとへてもはむしうの
時はあひようしは酒のんをうまえて
よのつねの人のやうもなよよの常の人は
よきさまはよきさまをひ酒づきよは

酒つきやうまあれど此人はきをち物を
きをぬをあてそろなることを好といへるは
うろことをいなる也
物やうくとこはれて物をあるまなりて
とのつきもやうくなる家よりをを
ぬをを家をなりとといへを物をを
なりて妻のあるはへをよりあるを
酒つくれをするをもなるをを
広をなりていををひていぬまと物
なををもえををぬ也
物んはをあひををひをる友をちのをを

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　30/52

Nagoya University Library

有常うちのおとゝ中将うまれ給へるを
よと折てあひうしとゝ申されハ十とゝ
此所ハ中将のうへ語てつゝしみ給ふ此女ま
うひて十四まと云説もあるしよと折ハ
指を折てかぞへ給ふこと也
うの御はてはてうの
中将これを聞給て宿衣なくまて
とのゝへてはられ
年ゝとゝとてうハ人々をいく度と数給
まゝうと十四まをうれて三月の数

日乃あれハいくゝゝ世事やさていくゝあひ
衣とゝのゝさゝめんと語給衣とハ有常
女房といふ一夜のなさをゝもとゝ
をよりて十四まあひうまて忽うとゝ
給まくんのうちさ世とゝけうて
ゝゝ河のかはもん命を中ゆゝ也
そやさ元乃を衣むをしやをゝ
是ハ又有常ゝ行也さ紀のゝ乃物と尼の
りくんやをゝゝゝと語りあはせ衣ハ
中将のゝれゝ衣裳ゝ中将ハ殿上人なれ
元のゝ衣といへをゝゝ又尼乃ゝゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　31/52

Nagoya University Library

やまいあるとき衣をぬぎてかけたるを
宣べしかるべしと日本紀に衣裳と書て続
紀のとき衣をぬぎてかの人にかけたまふ
しやとてもとつりにかけたるをも
ぬてまつりなとゝ云ハ
きもの衣ハさのこゝろなり女とハ
衣といへハやれるをうひてぬてまつる
いとゝ文よるんあるまし
ようひよりてゝ
有ようひあるとよ文よりかく
紙やく流者やまうふさてあるハ源のうつ
ゝ

十七
かりのこゝろこゝろさもうるさきもあるて
源とあるを泥にきて紙やく流者やまと
とはいつり
あるうとゝ名をよ紙をて撫むをはまるを人と給
此歌古今集にようを人ふ知とあり
をふ源あすハ者とう給るを源すハきとも紙と物や
同集に入業平朝臣の方なり消すあるを
むるう紙とゝまりやい者なり
十八
むしなさんあるを女あるを
ゝあるをてもをゝんなをとあるをとる
ゝるといふなまるさるを

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　32/52

Nagoya University Library

おとこちうきたり

女のたちちうなりと云男よりはなれぬんや

んこんとて菊のむらうつろをとおりて

此女房よんえる人々中ゐのんとこんて

きくのむらうをやへてやまろや

和井よ白ふいつて白雪乃えるもあるよ法とも

和よ白ふというつろへる菊の色と云いつく

いつまこ又いつくと云河といつくと云ふも

あるくあるくをもむこをもいつ

又吉色もろこ古今所折てみはとらるもへき

秋くこれえるもあるくまと云ふ白雪

とをとかくろ和もをこ此所乃んハ和ようふ

ろもむと白雪のやうよあるくよ咲ろえるとハ

いつまをと詠る也

おとこ云ふよこ云ふ

女乃我をんうとハ云ふ口よ由ろ分て

和しろうこ

和よ白ふうこ乃白菊ハ打ろ人乃神とも

ろのんハ和井ようろうこよ又白くこ

よ打ろ人乃神の色とおもうしまろ也

古こ云

花こて人まつ時ハ白雪乃神とのこうあまれ

いつまと白衣乃客をおもひまをてよ也

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　33/52

なりあし　陶淵明か古莫之

十九
むかしをとこ宮つかへしける女のかたにごたちなり
ける人をあひしりたりけり
宮つかへしける女とハ女御更衣なとにつかへし也
ごたちハ後達とかく女房の惣名也源氏
物語にもあまた也此後達ハ紀有常か女也
古今第十五巻にみえたり
ほどもなくかれにけり
をとこのかたよりうとくなりたる也
おなし所なれハ女の目にハみゆるものからをとこハ
あるものかともおもひたらすして

此をとこと女とハおなし所にて参會する也
女の目にハみゆれともをとこの方より女をある
ものともおもはねハうらめしきのあまりに此哥を
読るなり
天雲のよそにも人のなり行かさすかにめにハみゆる物から
あまくもハ天の雲也又雨雲の雲ともあまた
と云こともあり此哥ハ天のくもにさてよそなると
読り哥の心ハ女の目にハみゆれとも此男の
心ハよそになりて天雲のやうなると読り
天雲のよそにのみしてふることハわかゐる山の風はやミこそ也
古今集にハ初の五文字行かへり空にとあり

Nagoya University Library

世れしものとといつりケのんハ山より風ふ
あるて雲ハ出るといぬやうよ女のうとよ男
又うとへろうろうとくてしやくくよなりぬくと
ゆるゝ下の初より又おとゝあるゝ人とるんひろう
とり定ル

二十

定つゝ人する人なりられ
おとゝ乃定つゝ人する礼記ゝ宦学ゝ
定つゝしものゆるゝとゝ
天うるゝめよ初れる校ハ去ゝうゝくゝ秋の初葉りを
天ゝ者ゝとよ初れるゝ天ゝ出れるゝ
ましゝうゝれとゝく色つゝ定るといへル

とゝ定るよんゝ乃色とゝ出ちよつゝていへるゝ
ゝ人ゝとゝハ京よゝつよてゝんゝてゝうゝ
おとゝ乃京よゝれゝよて後女の色しとやゝ
ゝ家りてゝうゝ也

いつのまゝうつゝよ色の付ゝんゝ天ゝ里ゝハ去ゝ
色ゝおとゝ乃ケゝ出ゝて後ゝ系ゝ
よ折ハゝてゝよゝ天ゝぬゝ天ゝれゝみゝしぬよ
ゝとゝうゝるゝしゝれゝうゝ色付ゝ
天ゝうゝとゝハ去ゝ出ゝなゝ天ゝと後ゝ也
うつゝよ色ハかゝとゝ乃んゝのゝゝるゝさゝ色
へていゝるゝなゝ乃

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　35/52

Nagoya University Library

いさくりなりこゝろはてをて老中とうしとゝひて
おしのことといひて此女家出とゝろこ
出ていまハゝうといひやをん老のゝゝきほとへいゝハ
女のゝうこ老中とうしとゝひとりていはゝと
ゝて我とうゝくしく人のついるゝんと侍こ
をゝうゝくへなこもおほしぬと
をしうい性のゝゝあやしくといふんゝう
行これんをゝやうんとゝうへきゝるも笑し
ぬと出ていつゝあゝこをあやしくんとも
門より出てとゝかゝうつんくれと
此男門より出てとゝうゝ先ゝ侍ゝもし

女乃いよ〳〵ゝ老ゝとゝぬこ
ゝうひなゝ老ゝうゝ月とあゝう笑て我や行ひ
ゝのゝハゝ月となとゝうより笑ゝゝうす
ゝてもなゝよゝゝとゝうすて行ハゝふも
ひうゝよ老こと侍ゝも
人ハいゝをひやをんむゝつゝゝ行ゝ新よのゝいゝゝて
ゝをゝゝこの侍ゝこむゝつゝハ女乃髪のゝう
ゝうゝて行ゝうをゝゝゆゝとゝうゝも
祢んしゝひてゝやゝをん
ねんしゝむてハゝひゝ死てこ
ゝハゝて老ゝうゝ乃ゝゝとゝうゝ人ゝんゝゝゝをする

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　36/52

Nagoya University Library

女乃清乃字也此所のんハとするく義に相と
人はんしまうもしとハわくんまゆうちんと
いふと義の相なれと苔といふまそへるる也
忘れ義ふてくるる変相なるはそひろりとハそりしま
おとこ乃為所と忘れ義と相なるまうもと
さくるるさてハ我ととれるさまする
ることやへしと也忘義まと二相を萱義を
うまへをわもるる義といふる相れと忘れ
義といへる万義うも此二字をとれ義と
清をうる住者乃岸まとるるハ萱義やと
云説あり又忘義のてゑと所のはさるる

清乃ハ忘義也

又くあるしまを案をまいひうそして
うとうるもれ会はまいひうりて文ぬとなるる
忘るる清とやふんるるうるひまうるる案々小相るるる
ともるそるまるれまと又もまやうまやうんん
とうるるんうるるうるうる清るてんるるま
といへるしけるハ勝の字と清るるんん
なる空まるるやこの説もるく身れるるるも成まるる
女の清るるんれとこのんまるるるれるまハ
あるもあるやうなるんちもを清空まるる
やこ乃説もるるやうまるるるなまわるるる

Nagoya University Library

さと侍りなる

たのもしくよなりまされるうとくなりまさり

女と男とのゝ離へ侍るなりといふ也

うきなりゝとハそもゝ忘れぬいつ恨こつ侍りまし

といつゝ忘れもされもといひて

女のうとくいひをこをあれたれこゝろ

されもゝ忘れもさやといひて歌をもて

あひそへんひとゝ侍りものゝ乃なれて侍りとゝ

行のゝ中をもとハなひとひよんをゝりぬと

侍くすゝとゝものゝなれ乃侍ぬこゝとくゝとん

侍り川侍ハ川乃中也侍也

ゝゝ夜いよゝゝ案

れとこゝ乃やうよ侍れとも女ハゝ秋かへりゝ

いゝゝ侍くさなれとゝもなといひて

ゝよゝ案ハ又一侍之上乃侍ゝ乃ゝ侍ゝ也

秋の夜乃よゝと一夜ゝ侍ゝて八ゝ夜ゝ侍ぬやあくけの

ゝゝゝゝゝ又侍くさ秋のゝゝと契ゝて侍とゝの

侍ゝ乃ゝ秋の夜乃ゝ夜とひと夜ゝ侍ゝ

ゝれと又八ゝ夜ゝ侍ゝて侍ゝ侍ぬゝやゝ侍

やゝくゝれゝゝんゝ侍と侍ゝ夜ゝ代の

んゝ侍ゝ

秋の夜ゝ夜とひと夜ゝなゝゝゝゝゝ侍ゝ侍ん

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　38/52

Nagoya University Library

女のやうなるもひとをとりてゆるすなりといへる
とも行陸云ハ尼をすてゆるすなりといへる
廿三
むすめなるうまれひとりの人のまとも
田舎にて老をひろう人はみとも
きて此とうれかとこの乃ものうり
以男女のとうりとなるへて位あるへ
つ弁つ弁つまりくまるこをこのよりしる嫁
河内弁のりとてあ世ふとあれて男はけ
行とうしくちりて弁をこのこをすれ
ふりと詩うつて弁つハ弁乃弁つをれと
うきをていりて弁つ乃弁つとかをる

一本をえまろハ着ハ我身を掩してまろと
いへるやうてゑ楽ものを行丸なと此文字を
用ふりしの世まても童なと乃ゑ楽ものを
云ふや嫁とハ女を云ふ必しも書ふ
ふをろ世ふ文此字を元てかさなる
時ふりいひふをれやうあれをつふ乃
ふり嫁といふるや女ともまお遠世
ふ人ふりふふをもふをふをすすて後あくへ
ふりふ髪ハいとをなる時の髪をふをふをハ
なくふりふやあくへまとハおとるまりて
髪とあくろ事をんをうして髪あけする

Nagoya University Library

こゝとゝいふ所をすゝて語りあくへきことゝいふ事ハ出と人乃つまゝハなりまゝきんゝ也
はぬまゝいのちくあひまをり
おさなさはのおさをとをゝなり
女おやをくゝゝうゝくなりゆゝう
此女歌よまれてゝゝきをくなりまゝう
河内乃家ゝゝやをれ出りまいきかゝゝとゝう
いてきゝ家家
はかゝこゝをゝやをゝ人とゝりて行かゝゝ
ことあり
この女いとゝゝゝきゝゝゝて

假粧く粉を何とこゝ作る也
風俗ハ眞ハ白ゝこゝ立田山秋まゝゝや云ゝ物ゆゝん
此ゝ方ハ万葉集第一長田王と伊勢ゝ物語ゝ
つゝゝ作ゝゝ山を乃ゝ井ゝ語ゝゝ文古今
第十八の巻ゝゝゝ大和物語ゝ此事ゝ
ゝゝ但此物語と初の增減ゝ白波ハ
盗人といハ盗人ゝゝゝゝ山を夜ゝ
ゝゝくゝゝくゝゝゝ語ゝゝ歌昭
ゝゝゝ作ゝ定家々ハ立田山といゝゝ
ゝゝゝハ眞ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　40/52

Nagoya University Library

なをいよ〳〵猶の方へ盗人をたゝはといふ
ぶるまいあるすとゆ作り
てつくいひとりてをこれうつもの
もまるれとゆて
いひいひとりひくをこハ家まも
家のうちよりつふものうつを地まも
つくりりれくさゆてのるいあゆ
れともいやしきをすると
まや但むうハおとくはするか
うりをとさきとすれくるものをゆん
をこんといひ衣とふるあまハ新まね地の名つまの

あるやをれ世乃法りも此二を八方業乃方也
生駒山八河内と大和乃さかひあり山と
おくこすまをなりるる
紙よをたけをるをとすますなるといつ
いとねんはよいひをる人りもひあくんと変
ゆりけりる
おもおくこをゆてとも三年まてをる
りりりりいと神んはよいひりる人をる気
もりひをる人まあをんとするはよりる
おくこ乃ゆつをあるを
あけてりをとるんををて出りゆりる

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815 41/52

Nagoya University Library

ゑとハあをきをして門ちうしゆうを出しうこ
あしをの乃年ゑとをを結ひて只こよひを彩花をれ
ゑくちうひしをを彩花をれとハこと人ハ
けゝ給てあをんとちといふんや
梓ちまゆこつきちをとをてけをちとうちハ
或説ちを三をひていふハ三張のちをこけ
三去則三年を三去といふといふをあの
説あをちうるを文ち伝用ゑくもしれ
只ちハ引をれをゑまんのひくといえん
とてちとハいをうを云ちんれひをてもを
ちうとえんま梓ち海西こ椒ちひをとて

梓ち女乃足歌ちに此んをうをてあつをち
ひをとひうひとく梓ちなど也中のゑま
ゑすゑなちうと梓ちゑちもうちうとはいけて
むをすをといをををちうるゑなちやうま
引といをひをちとい一をひくるゑなを
かををいふるあまるゑんをいををかなち
をとちををいふ源氏ま寿のちをいを
ゑをひを文をこ引ををとかををいふを
源氏をかををれをこ引をくををいを梓ち
ゑをひを文ちゑるをとちををもいふこ乃
ゑ乃ちをとハ哲ふるを中ゑをちうこ引

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　42/52

Nagoya University Library

をよはらりくこえとゝ云乃んハ云よん乃
ひきてとゝ月をゝゝかゝをハらハく
ちゝて文こと人をゝんとゝちとゝゝなゝ
かゝとハ少しも神れとゝけてちゝふゝゝ
うゝゝ法ゝゝ物の中乃なくゝハゝと
ゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
持ちひゝとゝひゝゝと若ゝちんゝ云ゝゝゝゝゝゝ物と
弥のんハ物ゝゝゝ実ハん乃ひくもひゝゝ
ゝゝんハゝゝ先ゝ常云ゝれゝ二心なゝし
ものゝゝいつちハひゝをハひくゝゝこゝ本赤ゝ
ゝゝ物ゝれゝゝ実ゝ物とゝ清ゝ

女いとゝゝくて
此女ゝゝゝゝ人ゝ心ゝゝゝて彩花乃ゝも
ゝゝれゝゝゝゝ
そこなゝけゝいゝゝゝゝとゝひのちゝてゝゝゝゝ
ゝゝひハ小指(こゆび)のひの血(ち)ゝて云ゝゝゝゝ
ゝゝてのゝハ先つゝゝれゝ切ゝゝれ
ゝゝゝゝゝゝゝ
そこゝいゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝて宣ゝくハゝゝゝゝ
此ゝひゝゝゝゝゝゝて弥ゝゝゝ
いゝんゝてゝゝゝゝゝく書ゝゝゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　43/52

Nagoya University Library

世六 あハ[illegible]といへるうら女乃さすらなりけるかな
いひやるれ
此女ハ小野小町と古と集まりてあり[illegible]
とハいへるとも又さすらをるハけうと也
秋の野ゆきかふ[illegible]の神なりもあハてもをりをる[illegible]
あさハ朝く ひちハ[illegible]也 [illegible]中ねの[illegible]
[illegible]めなるよるの月とうと[illegible]やかまきるて[illegible]
小町うたへ此歌ハ男女月と云女をまもる
なるよるの月とうとめしともをもくをりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あ[illegible]くハはるくあめ[illegible]ハあ[illegible]
[illegible]
世六 文[illegible]
[illegible]
[illegible]ハ不[illegible]女の[illegible]
人の[illegible]ハ中ねの女[illegible]
[illegible]女の[illegible]
此[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　44/52

Nagoya University Library

さくハ波よせあらまほしきもとにたと
云ふ花乃下ハ海人ハ網をかけ釣をする
おうらんと皆海と海ハ海へていかう
女乃ハあらまほしきさかとうらやまして
黄質とハ名もしのうへハおのれ拙く所詮
あさてをうらハあらまほしの水とかへちう
さしうの歌也
我いうの拙き人ハ文とあしと拙いあ乃下ハ
女の清ら所くるうの新乃名もしの水ハ
まうとと云ふ文字乃所く
みなロハ我やうの清ら所ハ拙きへ名ハ下ハてあるあ
あ口ハ田へあるとをよいうく口くうの新ら水ハ
うつ乃てくゆきく蛙とたるみるをさて
うくと清ら女の所しあれうくこのうをと
へきく男のをるうをくさ海とうて清らく
女
ひうく名このこなうの乃女
小野小町とうう
なうてうくあうくうみる所ハ人ハかくとたひ拙と
うくうくハ竹の篭こうれとをるうれかくされう
拙へあうあうくとハ堅固ハ拙うと
たひくあうくを拙ハ竹とうぐうくむ
くうくうあうくあうれてとうくくを所の所

Nagoya University Library

三十九

むつ東宮の女御乃けうそく花乃賀うし

女御ハ二条の后と陽成天皇ハ貞観十一年

二月一日太子ゝ立ゝ御年二歳と是ゝ実

御母ハ二条女御と東宮乃女御とヤ侍ゝ也

古今并一文屋康秀ゝ哥ゝ日のひかりにあらと

よ侍ゝ文ハ紀ゝ二条の后乃東宮の

きさき所とさて久ゝ御とうゝ所ハやきん位

女ハ乃けうそく

ゆゝしあつまられゝゝ

ゆゝしきれてハ賀のゝと侍ゝし也

花よあらぬなを秋ハはもきりたゝ花ゝ

女御乃けうそくとゝひる事なて侍ゝ

四十

ゝひかりなり宮乃女御乃けうそく

初ゝ

ゝ

ゝとハむ乃とゝ花ゝ

むのとハ乃ゝ

いてゝ

ゝ

ゝ

ゝ

ゝ

四十一

なを乃ゝ

ゝハ敵ゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　46/52

Nagoya University Library

ようやまとことばのさうこんといふ
まことふるんとハ人の死てちとゐれて楚れ
うへよりまうせれとまとまるなんといふさうハ
不祥やのろふ親へ
つくしなるへとうこへいろまとのうへうかとい給
うこへハ日本紀ニ誓の字をうこへと詠り
家ニハ咒咀とうこへとゝ云リハ呪詛ハ
そこ有り罪もなふ人をのろへ還着於
本人のことわりまて我身ニかゝると詠るや
長生とゝ死わるへ人のなりて
久しくなるとハ長生とゝ云ゝ

歌くせ日数ふれを長くなり
わるむ女もを宮
そもとゝ云ゝ中て祈るむ女ありとゝ
のろ〳〵いそれ有りと詠いて中女の
ゝうどとてわるまくをふと
三十二
いろ〳〵の袖ゝ中ゝ苦とゝなすゝれ
古と集ニいろ〳〵の袖ゝ中ゝいやしれ
さうハゝもの　なを袖乃ゝ中ゝ
宮ニ女乃夢とうこへ中ゝ有ると
ゝと袖のゝ中ゝさ云ゝいやしれと
つゝて詠り此苦とハのくうこへ

ともに掬ふれとあかぬともいへる心なり
なさけをも残したるハかくれさるに詠る歌を
此歌をむかし物いひける女に詠てやれる
むかしを今になさはやといへり

三十三

あしへよりみちくる塩のいやましに君に心を思ひますかな

万葉集山口女王の歌上乃句ハおなし下句ハ
おもへか君か忘れかねつると也 いやましいはく
塩と塩のさすに渉まふかくなるらん也
おりにおもふ心をいかてかハ舟さす棹のさして知へき
こもりえにおもふハ人しれすこもりておもふ心さして知
へきハさしていはてもしるへやと云こと下心よ
みかくれさハいつく棹さして我にをしへよ
舩乃縁さしての詞とおなし心也
ゐなか人のことにてハよしやあしや
津の国むはらの郡乃女なれハゐ中人といふ
それか詠る歌にてハよしとやいはんあしとや
いはんとく

三十四

いへはえにいはねは胸にさはかれて心ひとつに歎くころかな

いへはえはいはんとすれとえいはぬ詞となり
いはねハ又胸の中にさはく也
おもなくていへるなるへし
おもなくてハ面目なかれたと云んとつれなき

Nagoya University Library

三十五

人をも井てもろこしハおしなべていつる
むろをあハせるようにて結ぶハ是ハ結ての後もあらんとなり
あくるとハ合をてうまろ糸くくりあ合を
あらいとハ結をれとなのれとうあひても
とのことくもろやうに結あらぬ中なりとも
又立くあさんと結ぶ也

三十六

しらをれぬるなかりとひとりくるる女乃結
をすまぬるとひとをもろ女乃あるる
結てをハ結ぶ

谷せはき峯にてこゝろむすぶんと人はいはぬ
谷ゝうゑまてこゝろつゝハ結ねあくこ

万葉十四 谷をはき峯にまてをひゑるむすつ
あてのんまるやハなくゝ

三十七

しらをれぬこゝ女姫こなりをろ女ゝあくゝ
是姫の女なれをんをもくをあとうゝ
あをよといふなり
ゑるて下ひとゝれ樓(あさぎ)の夕ゝを由ゝねむまハとも
樓ハ女ゝあゝとゝ夕ゝけまゝをゝゝなゝ
是ゝハあゝとも我をて又こゝ人ゝ下ひ
ゝくゝをといゝゝゝ是乃ひゝくゝ風をハひゝと
いつる樓ゝ抜ゝて結ぶ也
ゝゝて結ひゝひゝをひとゝてあひゝゝ由ていとゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　49/52

Nagoya University Library

男女二人して話ひ〻ひとりれて夫のあひ
みさん男ひとりていとくまし〻と領状
さてなし案
三九
むか〻紙乃有者ろいさろよありさてとろく
さろよろてやろれ
中將ろまいさろよ有者かへ行てとろく
人ろさろ〻ろ〻猿てやまろや
夫ろろ〻ひ男ひぬ者中れ人いまれとやもひといん
有常ろとはくろろを行ろ〻ろ〻と
者乃人ろ〻ろてろ〻
ろ〻乃〻者の人とかはとろを者といふとひ係

者乃人れ〻ろ〻者といふはろをいふと
れもろ〻ろ〻〻人ろ〻ひ〻とろや
者のはいとれもすけや

神宮皇学館文庫
32464
昭20. 10. 1

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　50/52

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　51/52

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「愚見抄」巻一、巻二
10060815　52/52